

# 拝

啓、マルクス様。貴方がこの世を去ってから、1世紀以上もの月日が流れましたが、僕たちは相変わらず資本主義社会を生きてます。貴方がご存命のころと比べて、資本家の方々も、僕たち労働者（今はサラリーマンと呼ばれる人たちが多いですが）に対してそれほどなりに気を使ってくれるので、それほど居心地は悪くありません。

貴方は、主著『資本論』において、資本主義の始まりから、発展、没落までを分析しました。資本主義は没落どころか、ますます発展しているようです。大多数の僕たちサラリーマンは、やはり労働力を売って生活してます。貴方はこんなようなことを言っていましたね。

「労働者は、いくら頑張っても、その働きに応じた賃金をもらえない。その労働の超過分は資本家の懐に入る」「より効率よく儲けるため、資本は集中して社会的な存在になるが、資本家の目的が儲けであることは変わらない」「資本主義の発展は、資本家が自

由に利用できる人間を作り出す」

アレ？ 意外に現代に似ているような部分もありますね。成果主義の流れもあるけど、サービス残業はまだまだ当たり前。M&Aが効率化を優先しているならリストラもやむなし。自由に利用できる人間とは、ある意味、簡単に切り捨て可能な労働者のことですね。最近の日本では、格差社会なんていわれる問題が議論されてます。

今、日本は、好景気だそうですが、それを実感している人は1割もないといえます。それもそのはず。ここ5年、景気は拡大しているのに、一昨年までサラリーマンの所得は減っていて、個人に対しての税金は上がっています。やるせないですが、資本家と労働者は、妥協点を探りあいながら資本主義を存続させていくでしょう。共存共栄ってやつですね。双方とも丸くなりません。貴方は、今の世の中をどう眺めているのでしょうか。その声が聞けないのが残念です。それではまた。——敬具。

(武藤平蔵)

## 経済学の巨人たち

(編集部調べ)

アダム・スミス	労働の生産物が富であり、労働が価値を生み出すという「労働価値説」を唱えた。人々が勝手に利己心を追求しても「神の見えざる手」によって調整されると説き、自由競争を主張
マルサス	人口がねずみ算的に増加するのに対し、生活物資は算術級数的にしか増加しないのが「貧困の原因」と説いた「人口論」で有名。その解消策として人口増加の抑制を主張
リカード	各国が生産費の安つく産業を専門化し、生産費の高つく商品は安く買える外国から輸入したほうが良いという「比較生産費説」に基づいた自由貿易を主張
メンガー	財の価値は、個人の主観的満足で決まるという「限界効用価値説」を主張。限界効用とは、たとえば空腹時のパンは最初の効用がもっとも大きく、同じパンでも2枚目以降は低下すること
ケインズ	国家が、公共投資や低金利政策によって積極的に経済に介入し、完全雇用を実現するべきと主張。古典的な経済の自由放任政策からの転換を説いた。これをケインズ革命と呼ぶ

現代の経済学は、資本主義経済を数値化して分析する近代経済学が主流。しかし、マルクス経済学が全否定されたわけではなく、近代経済学に吸収されている部分もある

本 そろそろ春闘の季節ですが…

## 高度資本主義の現代から、 『資本論』著者・マルクスへの手紙

写真提供 / AFLO



カール・マルクス。1818年、ドイツ生まれ。経済学者、哲学者、革命家。資本主義は、マルクスが『資本論』で定義した。性格は喧嘩早く自信家だが、悲観的な面もあったという